漁師を育てる（沿岸）

漁業の人手不足は今に始まった問題ではない。悩みは全国で共通する。だが東日本大震災の被災地域では、産業基盤の一時的な喪失や、それによる人口の流出などで、課題が一気に加速した。だからこそ、業界や地域に「金の卵」を大切に育てる機運が高まっている。

宮城　〝新参者〟に開かれた漁村

新人を受け入れる動きが広がっている（提供・一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン）

宮城県では2017年度から、沿岸漁業の担い手育成事業「みやぎ漁師カレッジ」を行っている。興味をもった人を広く受け入れる5日間の短期研修と、本気で漁業者を目指す人を対象に約半年間かけて優秀な人材を育てる長期研修の2タイプを用意しており、興味をもった人を広く受け入れられるようにしている。

これまで短期研修7回、長期研修3回が開かれ延べ66人が参加。無線や船舶などの免許取得の支援も行っているため、漁家子弟の参加者も多いが、研修を経て異業種から漁業者になった人も16人（1月16日現在）おり、宮城で漁業に就きたい人の〝入り口〟として定着し始めた。

マッチングで担い手確保

より効率的な横展開へ

未経験から漁業への就業をより確実にしようと、石巻市では独自の活動が展開されている。市が実施する「水産業担い手センター事業」だ。市内5か所に新人漁業者専用のシェアハウスを整備した点が他地域と大きく異なる。最初から完全移住という高いハードルを下げた形だ。

ただ、それ以前に重要なことが、いかに人を集めるかだ。センター事業の事業運営を市から委託された一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンは、1泊2日の〝漁師学校〟の開催や、漁業就業支援フェアへの出展、ホームページや求職サイトへ求人票の掲載などを行い、露出度を高めて広く人集めを行っている。

問い合わせ件数は15年の事業開始から徐々に増え続けている。担い手不足の実情を考えれば、希望するすべての人を受け入れたいところだが、事務局の髙橋由季さんは「募集先の漁業者と一緒にがんばれる人物かを見極めることが、最も重要なこと」と語る。

過酷な仕事であるうえに、問い合わせてくる人の多くは漁業を全く知らない未経験者。その中でも石巻の漁村や仕事に熱意を注げる人物を探し出し、それからようやく漁業者と引き合わせる。そうした丁寧なマッチングのおかげで、これまで30人を受け入れ、20人が石巻の各浜で漁業を続けている。

16年から蛤浜地区のカキ養殖家のもとに就業している新人漁業者は、昨年9月に正組合員資格を取得した。准組合員資格の取得者もあり、「新参者」であっても受け入れる地域が徐々に出てきている。

髙橋さんは、「本人のやる気が地域の人の心を動かす」と話す。実際、このようなやる気ある若者を見て「こういう人だったら自分も雇いたい。誰かいい人はいないか」と、問い合わせる漁業者も、近年増えているという。

フィッシャーマン・ジャパンは、新人漁業者同士の親睦を深めるため、年3回の交流会も実施。そのうち1回は必ず、就業先の親方にも参加してもらっている。「親方だって、域外の若者を受け入れるのは初めてで、知らないことが多い。こうした機会に同じ境遇の人同士で話し合うことで、不安の解消や問題の解決につながる」と狙いを語る。

これまでは交流がなかった、別の地域同士の漁業者が知り合う場にもなっているそうで、浜ごとに小さくまとまっていたコミュニティーが、徐々にだが、外に向け開かれつつある。

交流会では今後、新人漁業者を対象に流通や小売、水産業界の動きに関する勉強会も実施する予定。フィッシャーマン・ジャパンは「漁業者になるのがゴールではなく、そこからいかに考えて稼げるようになるかが重要。そのきっかけをつくり、石巻の漁業をもっと盛り上げていきたい」としている。

各地の新人・親方をつなぐ交流会も実施（提供・一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン）

岩手　基礎からICT活用まで

就業希望者と受け入れ先は丁寧にマッチング（提供・一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン）

1年がかりで学び、育てる

漁業者不足に対応した〝漁師学校〟の設置は、岩手県でも進められている。2019年4月に開講した「いわて水産アカデミー」は、1年をかけて県内の各種漁業の基礎知識や技術を学ぶだけでなく、情報通信技術（ICT）を活用した経営手法の講義を交え、新たな時代に生きる漁業者を育成、確実に地域に定着させていく。必要な資格取得は支援し、半年間の現場研修も合わせ、事業修了後の就業にも努める。

県内で漁業就業を希望する人が対象で、定員は10人。昨年4月からの第1期に7人が受講した。

開講から4月いっぱいは基礎知識を講義形式で学ぶ。県やJF岩手漁連の職員らが講師となり、アワビやウニなどの栽培、ワカメ・ホタテ・カキの養殖、資源管理、気象、関連する法令や制度、海難の防止策、ロープワークなどを教える。

講義は以降も2か月に1回開催され、より実践的な無線や船舶の資格取得に向けた講座や、インターネットで公開される漁海況情報などを利用した経営など、ICTの活用法などについて学べるようになっている。

師匠とともに作業を行う岡野さん㊨

5月から翌年3月までは実習期間で、現役の漁業者を講師に招き、実際に定置網漁やワカメ養殖など、県内の代表的な漁業種をひと通り体験。そのうえで受講生の希望する漁業種を聞き取り、より専門的な知識、技術を学べるようにする。

研修先は、終了後に受講生を受け入れられる漁業会社・団体などとなっている。

第1期生は洋野町、普代村、釜石市、大船渡市、陸前高田市を研修先に選定し、3人が定置網、4人がカキ養殖で長期研修を行っている。

大船渡市のカキ養殖業者のもとで研修中の岡野竜也さんは、「師匠からは養殖技術だけでなく、経営などについても手取り足取り教えてもらった。いずれは漁業権を取得して独立し、大船渡でカキ養殖を行いたい」と語っている。

来月からは第2期が始まる予定となっており、7人の受講が確定した。県水産振興課では「担い手確保だけではなく、新技術を応用する力をもった次世代の漁業者を育て、漁業の成長産業化を促したい」としている。

第1期は7人が受講

日本かつお・まぐろ漁業協同組合
代表理事組合長　山下　潤
〒135-0034　東京都江東区永代二－三－一
電　話〇三（五六四六）二三八一
FAX〇三（五六四六）二六五二

一般社団法人　全国いか釣り漁業協会
会　長　重　義　行
〒107-0052　東京都港区赤坂一－九－一三　三会堂ビル
電　話〇三（三五八五）四七三六
http://www.jasfa.or.jp/

水色の羽根募金
―漁船海難遺児に愛の手を―
公益財団法人　漁船海難遺児育英会
理事長　鈴木俊一
〒101-0047　東京都千代田区内神田一－二－一　ダコタハウス五階
電　話　〇三（三五一八）六一一一
FAX　〇三（三五一八）六一一二
http://www.jf-net.ne.jp/kueikai

東日本大震災9年　思いを馳せて

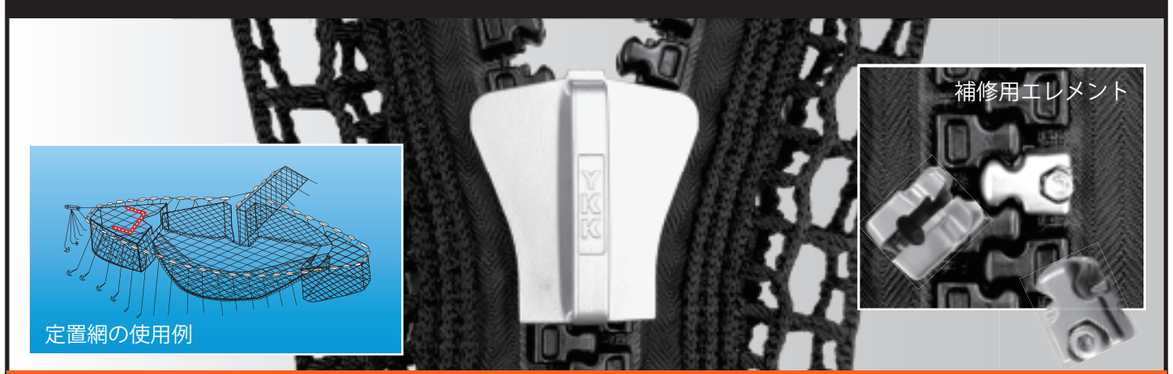
海洋の未来を拓くために
国立大学法人　東京海洋大学
学長　竹内俊郎
〒108-8477　東京都港区港南四丁目五番七号
電話　〇三（五四六二）〇四〇〇

JF全漁連　全国漁業協同組合連合会
代表理事会長　岸　宏
〒101-8503
東京都千代田区内神田1－1－12 コープビル7階
電 話　03(3294)9611
https://www.zengyoren.or.jp

一般社団法人　大日本水産会
会　長　白須敏朗
〒107-0052　東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル
電　話 03－3585－6681
ＦＡＸ 03－3582－2337

全国漁業共済組合連合会
会長理事　宮原淳一
副会長理事　福原正純
副会長理事　矢部廣一
副会長理事　前川健吾
〒101－0047　東京都千代田区内神田１－１－12（コープビル内）
電話03(3294)9651(代表)
http://www.gyosai.or.jp

JF共水連　全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長　大井誠治
〒101-0047
東京都千代田区内神田１－１－１２（コープビル）
TEL　０３－３２９４－９６４１

30VF　漁網用ファスナー
強度アップ・動き滑らか・船上補修可
YKK　Little Parts. Big Difference.


問合わせ先：0120-13-4128（イーサヨイジッパー）
http://www.ykkfastening.com/japan
YKK株式会社
ファスニング事業本部　ジャパンカンパニー
Fastening Products Group　「YKK」、「YKK Little Parts.Big Difference.」は YKK株式会社の登録商標です。